



自信をつけて自走へ

学校長 村越 新

18日(土)の第51回運動会に向けて、練習も本格的に始まりました。計画委員会、応援団、各種目の実行委員を中心に、扇っ子が張り切って取り組む姿は、見ていて気持ちがいいです。

「**自走する子**」の育成を目指している本校で、このように自信をもって活動する姿は、一つの成果だと考えます。自走するために、不可欠な「自信」についての記事がありましたので、私なりに要約して紹介させていただきます。(参考:こどもまなびラボ「教育を考える」)



「自信の有無は、子供の幸福と目標の達成を左右する」(レベッカ・ローランド博士)

★自信がある子の特徴

- ・大きな目標に立ち向かえる
- ・失敗しても立ち直れる
- ・チャレンジを恐れない

★自信を伸ばす4つのコツ

- 1 小さな成功体験を重ねる
- 2 リッチトークを心がける
- 3 ほめ方を工夫する
- 4 大人がポジティブな言葉を使う

*リッチトーク(豊かな会話) ABCの3原則

A Adaptive

臨機応変

子供の願望や欲求に柔軟に応じる

B Back-and-forth

双方向

お互いに積極的に会話する

C Child-driven

子供主導

子供の目標・関心・欲求から会話を始める

→ 質の高い会話は、子供の自信と創造性をはぐくむ
この習慣は、親子の絆も深めていく

*ほめ方の工夫

- ・よく観察してほめる
- ・結果ではなく努力や頑張りに着目する
- ・他人と比べない



*親が気をつけるべきポジティブな言葉かけについて（高濱正伸）

物事を始めるときに、子供が「できない」「やりたくない」と否定から入るのは、**失敗を恐れている**から。これは、親の言動が影響している。つい、**結果ばかり**、褒めてしまう。「できるのかな？」と**不安な気持ち**が子供に伝わる。

子供に「うちの子なら大丈夫」という**安心感**を与え、親自身も**前向きな気持ち**で子供を見守ることが大事。日々**ポジティブな言葉**がけを続ける

植松努氏は、著書の中で次のようなことを語っています。（「どうせ無理」と思っている君へ PHP 研究所 2017.3）

- ◆まずは、簡単なことから**「やる」**のです。それが力になります。蓄積されます。輝きます。人生は、ちょっと**フライング**したほうが前に進みやすい。**できない理由なんて無視**して、どんどんどんどん、夢をかなえていけばいいんです。
- ◆「失敗しないためには、挑戦しない」のが安心、ということで、何も変わらない。失敗すれば、**新しいこと**がわかるのに。失敗から**工夫**すれば、もっといいことがわかるのに。失敗を繰り返してやがて成功すれば、**自信**が持てるのに。
- ◆はいはいを卒業して、つかまり立ちを始めた赤ちゃんは、自分の意思で歩こうとする。当然だが、うまく歩けない。よちよちと一歩踏み出したとたん、転ぶ。これは明らかな失敗だ。健康な人なら誰でもできる「歩く」という動作が、**まともにできない**のだから。でも、赤ちゃんは転んだ自分を、「かっこ悪い」と**恥ずかし**がったりしない。「自分には**才能がない**」とがっかりもしない。「歩くのは向いていないから、やめよう」と**あきらめ**たりもしない。頭からどてっと派手に転んだ赤ちゃんも立ち上がり、**何度でも歩こうとする**。これが僕たちの**本来の姿**だ。君の**もともとの姿**だ。

第51回扇小学校運動会のテーマは『**笑って泣いて新たな扉走り抜け**』に決まりました。計画委員会が中心となって決めてくれました。勝っても**負けても**、成功しても**失敗しても**、褒められても**叱られても**、その力を新たな扉を開ける**パワー**に変えてもらいたい、**自信**につなげてもらいたいです。

自信をつけるための出来事は、大きな行事だけでなく日常の中にもあるかもしれません。大人がその環境を整え、評価し、**見届ける**ことがとても大切だと、私は考えています。

